

社員のストレスに注意を

OCHIS 第6回セミナーを開催

【大阪】大阪ヘルスケアネットワーク普及推進機構は13日、大阪大学で「睡眠時無呼吸症候群(SAS)とメンタルヘルスの現状と対策」をテーマにセミナーを開催した。理事ケアネットワーク普及推進機構は13日、大阪大学で「睡眠時無呼吸症候群(SAS)とメンタルヘルスの現状と対策」をテーマに講演。ストレスなどを感じる労働者の割合や原因の調査分析を報

告し、メンタルヘルスの計画と進め方の重要性について解説した。また、武田氏は「パルスオキシメーターを使いストレスの指標を出すことで、メンタルヘルスケアができる

のではないかと考えている」とし、「SASのノウハウを結集してメンタルヘルスケアの計画づくりを支援したい」と語った。

OCHIS理事の作本貞子氏が「4万人アンケートから見える睡眠状態と生活習慣における課題」をテーマに講演。運輸関係者の生活習慣アンケートの結果を発表し、「今後は個人の生活習慣に踏み



込んだ指導を取り入れていくことが必要」と述べた。

さらに、全ト協労働部長の高安茂氏が「最近の労働問題について」、交通労連関西地方総支部執行委員長の早崎正憲氏が「事故がなくなる労使関係」、OCHIS保健師の黒田悦子氏が「SAS等の睡眠障害と健康・こころへの影響と改善策」についてそれぞれ講演した。

セッションでは、武田裕氏をコーディネーターに、各講演者がパネリストを務め、活発に意見交換を行った。また、健康と安全に関する会員専用の情報と管理者の仕事をサポートするサービスを、ホームページやメールを通して提供する「OCHIS会員サービス」を12月から開始することが報告された。(中村優希)